

幼児教育研修（年齢別担任研修2歳児 第2回）

受講者数 91名

日時 令和4年9月21日（水）15:00～17:00

場所 ギャラクシティふぉーらむ（多目的室1.2）

講師 彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏

【内 容】～子どもの発達と保育者の関わりについて～

子どもの姿をよく見て思いに寄り添い、場面ごとに今は見守る、少しだけ手を差し伸べる等、個々に合った適切な保育者の関わりを考えていくことが大切です。

子どもの揺れ動く気持ちや見取りについて、動画を用いた様々な事例をとおして理解を深めます。

**【受講者の感想】***** 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- ・パッとその場を見ただけや、安全の基準のみで判断せず、その子が何をしたいか、何を求めているのかを理解するように色々な視点から子どもをみていきたい。
- ・2歳児のイヤイヤ期の子どもたちへの関わりに悩んでいたが、今のイヤイヤ期があるからこそ、自己コントロールが身につくことが改めて考えられた。受け止める力の大切さ、言葉掛けの大切さを心に留めながら保育を行っていきたいと思った。
- ・普段の保育ではつい全体的に見すぎてしまうことがあるので、子どもと一緒に何かを行うことを意識していきたい。ビデオの中で子どもが満足するまで付き添う保育者の姿が印象的だった。子どもの行為を良い・悪いだけで分けるのではなく、子どもの願いを受け止めながら保育者の願いを組み合わせたいようにしたい。
- ・感情抑制や調整がまだ未熟な2歳児の子どもたちは思いを受け止めてくれる保育者の存在が大事だという言葉に共感した。その姿を意識し保育に役立てていきたい。
- ・寝転がって電車で遊んでいる子どもは、ただ横になっているのではなく、自分も電車に乗っていることを楽しんでいるのではないかと見取ることができると聞き、様々な視点で子どもの様子を見守っていきたいと思った。